

イオン株式会社とサーキュラーエコノミーの推進に関する連携協定を締結します ～官民連携による、未来につながる循環型ライフスタイルを創出～

千葉市とイオン株式会社は、サーキュラーエコノミーの実現を目指し、家庭から排出されるペットボトル、単一素材製品プラスチックの資源化などに関して「サーキュラーエコノミーの推進に関する連携協定」を締結しますので、お知らせします。

また、同協定の締結式を行いますので、併せてお知らせします。

1 協定の目的等

千葉市とイオン株式会社が緊密に連携協力しながら双方の資源を有効に活用して、市民生活に密着した資源循環の仕組みを構築し、循環型ライフスタイルを創出することにより、サーキュラーエコノミー（循環経済）を推進することを目的としています。

本協定は、平成23年5月に千葉市とイオン株式会社が締結した「千葉市とイオン株式会社との包括提携協定」の具体的実施事項について定めた個別協定として位置付けられます。

2 連携協力事項

- (1) ペットボトルの水平リサイクルに関すること
- (2) 単一素材製品プラスチックの拠点回収・再資源化に関すること
- (3) 小型充電式電池の安全な分別回収に向けた取り組みに関すること
- (4) 3R教育に関すること
- (5) その他、本協定の目的達成に資すること

3 協定に基づく主な取り組み

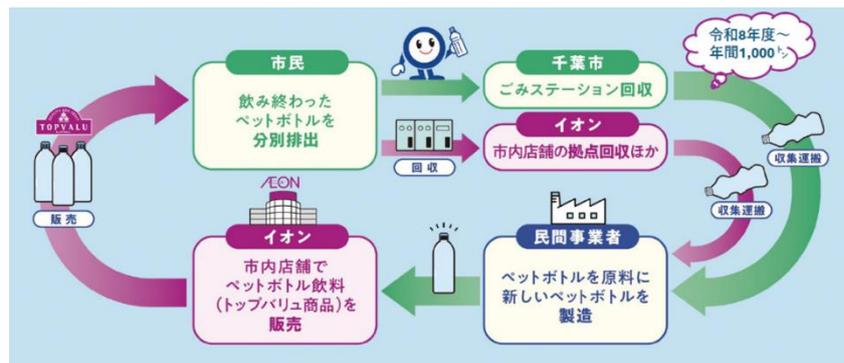
- (1) ペットボトルの水平リサイクル（ボトル to ボトル）【令和8年度開始】

千葉市のごみステーションで回収されたペットボトルのうち約1,000トン、イオンのプライベートブランドである「トップバリュ」のペットボトル商品としてリサイクルします。リサイクルされたペットボトルは千葉市内のイオン、イオンスタイルの各店舗で販売され、ペットボトルの資源循環の実現を目指します。

「水平リサイクル」は、使用済みの商品を原料として同じ商品を新たに作る資源循環を推進する取り組みとして注目されています。



プロジェクトロゴマーク



ボトル to ボトルの流れ(令和8年度開始予定)

(2) 単一素材製品プラスチックの拠点回収・再資源化【令和7年6月開始】

市内19カ所の公共施設で、すでに実施している単一素材の製品プラスチックの拠点回収・再資源化の事業において、イオンモール幕張新都心を新たな回収拠点として追加することで、市民の排出機会を増やし、再資源化量の増加を図ります。

以下15品目の単一素材製品プラスチックを無料で回収します。回収した製品プラスチックは同じ材質のプラスチックごとに小さく砕いて溶かした後、新たなプラスチックを作るための原料として再利用します。



イオンモール幕張新都心
回収ボックス



回収品目(15品目)

(3) 小型充電式電池等の安全な分別回収に向けた取り組み【令和7年6月開始】

家電売り場のあるイオン店舗において、小型充電式電池の適正な排出方法に関する啓発ポスターやPOPを掲示します。

本市では、環境事業所および新浜リサイクルセンターでリチウムイオン電池等の小型充電式電池の拠点回収を実施していますが、近年、不燃ごみ等への不適切排出による廃棄物の収集・運搬・処理過程で火災のリスクが増大しているため、小型充電式電池を使用した製品が販売されている店舗において効果的な周知・啓発を行います。

<周知・啓発実施店舗>

- ・イオン稲毛店
- ・イオンスタイル鎌取
- ・イオン海浜幕張店
- ・イオンスタイル幕張新都心
- ・イオンマリンピア店
- ・イオンスタイル検見川浜
- ・イオンスタイル幕張ベイパーク
- ・イオンスタイル千葉みなと



啓発POPの画像

(4) 3R教育に関するイベント等【令和7年6月開始】

千葉市およびイオン株式会社が、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の理解促進に関するイベントを実施する場合に、イオン株式会社は千葉市にイオン店舗を会場として提供するほか、千葉市はイオン店舗で開催されるイベントにブース出展や啓発物品の提供を行うなど、相互に必要な協力を行います。

4 協定締結式

(1) 日時

令和7年6月2日(月) 15:00～15:20

(2) 場所

市役所高層棟4階 市長応接室

(3) 出席者

イオン株式会社 執行役副社長 人事・生活圏推進担当 渡邊 廣之 様
千葉市長 神谷 俊一

<参考>

1 サークュラーエコノミーについて

サーキュラーエコノミー(循環経済)とは、従来の3Rの取り組みに加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を目指すものです。

大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、健全な物質循環を阻害するほか、気候変動問題、天然資源の枯渇、大規模な資源採取による生物多様性の破壊などさまざまな環境問題にも密接に関係しています。資源・エネルギーや食糧需要の増大や廃棄物発生量の増加が世界全体で深刻化しており、一方通行型の経済社会活動から、持続可能な形で資源を利用する「循環経済」への移行を目指すことが世界の潮流となっています。

2 イオン株式会社におけるサーキュラーエコノミーの取り組みについて

イオン株式会社は、2030年までに使い捨てプラスチック使用量を半減する目標を掲げ、容器包装資材の削減や環境配慮型素材への転換、店舗を起点とした資源循環モデルの構築を進めています。

具体的な取り組みとして、お客さまにご持参いただいた使用済ペットボトルの回収・運搬・リサイクル・商品化まで一気通貫して取り組む「ボトル to ボトル」プロジェクトを2021年より開始しています。地域特性を考慮した循環モデルの整備を進め、トップバリュのペットボトル飲料の容器として利活用しています。

今後もお客さまと共に、資源の無駄遣いや使い捨てを見直し、循環型社会の実現を目指してまいります。